ふかまちのまど
第七六号　二〇〇〇年八月一日
発行元　深町　町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八七

夏は子どもの季節

小林　龍一郎

夏は子どもたちの季節、子どもが主役の季節にふさわしい情報を提供したいと「子どもセンターみはら」の情報誌「ワンダーエッグ」一市五町の子どもたちの一人ひとりに送った。

夏休みは私にとって遠い昔のことで想い出もかすみがちだが、夏休みが楽しかったことは確か。蛍狩りにはじまって、トンボ・セミ・フナ・コイ・イナ・ウナギ・メジロと忙しい毎日を送っていたことを想い出す。取り組むテーマが次々に自分の脳裏をかすめ、仲間との情報交換が実に充実していた。そして、夕方には縁台での大人から聞く恐いお化けの話しなど、一日中とりくむひとが多すぎて、何に熱中したのか忘れるほど熱中の毎日であった。

親の口出しも少なく、暗くなるまで思いっきり遊ぶことができた。夏休みは本来、子どもたちが学校から開放され、日頃できないことや興味のあることを体験する期間。太陽に焼かれ、河童になり、何かに熱中することで心身が健康になる季節である。

鮮明に記憶にあるのは、むんむんとした草のにおいと虫の鳴き声、そして百日紅の鮮やかな赤い花。汗にまみれた顔をぬぐった仕種。半世紀を超える今、街から原っぱが消え、河から河童が消えた。土と戯れながら遊ぶ経木帽子の姿がなくなった。毎日どこでどうして過ごしているのだろうか。

川で遊ぶことが禁じられ、虫取りやわくわく心が踊るような体験をする機会がなくなったのではないかと思いめぐらしている。戸外でギラギラと汗をかいて、何かに目を輝かせている子どもの姿を見ることが少なくなった。夏休みの四十日ほどで、あれもこれもできるわけではない。少しのことをじっくりとやり遂げたという成就感の方が、二学期への橋渡しに大きな効果を生む。

これからしばらくの間は、酷暑との我慢比べ。こんな時こそ、クーラの部屋から飛び出し、仲間とともに発見や体験を通して、感動の夏を味あわせてやりたい。

そんな「子どもセンターみはら」の情報誌をつくるために、月に一回二時間のサポーターになってくださる方はおられませんか。中央公民館で魅力ある情報誌をつくり、配るために貴方の能力と腕力を貸してください。少子化であり、劣子化であるという人もいるらしい。そんなことも、ともに考えてみませんか。▲▲

☆　☆　☆　☆

「近東伊太利航路」の思いで（9）

秋本　俊之

シンガポールを出港し、東支那海を北上し続けること十日間位の航海で、北支の遼東半島の大連港に入港しました。

印度のボンベイに上陸して以来土地を踏んでいないので、大連の岸壁に立った時は、久し振りに土の感触を得て、丁度鶏が籠から外に出された時の如く、嬉しくてしばらく走り回りたい様な感じがした事を今でもはっきり覚えて居ります。

停泊して荷役中、日露戦争（明治三十七・八年）で有名な旅順の激戦跡を訪れることができました。

尾道の千光寺山位の小高い丘の頂上に露軍が陣地を構築し、日本軍が山の下からそれを総攻撃をくり返すて、多くの犠牲者（戦死者）が出た二〇三高地の古戦場は有名です。

ロシア軍は山頂に大砲、機関銃をかまえ、日本軍が山裾から山頂に向けて総攻撃を何回くり返しても、日本軍は全滅をくり返すばかりで、攻略することはできません。その時の総司令官が乃木希典大将です。

そこで戦略を変え、山裾から山頂に向けてひそかに人間がやっと通れる位のトンネルを掘り進んで、ロシア軍の背後から攻略に成功した戦場跡が、現在でも生々しく観光地として残っています。

日本軍は、多くの戦死者を出し乍らも勝利をおさめる事ができました。

その当時のロシア軍の総司令官ステッセル将軍と、日本の乃木将軍が、停戦条約の会見をした「ナツメの木の下の会見場」も残っています。

日露戦争は多くの戦死者を出し、終戦後、日本に帰還して国民から大歓迎を受けた乃木将軍は、当時の心境を左の様な漢詞に残して居ります。私の中学二・三年頃の漢文で、全文は忘れましたが、記憶に残っている部分のみを書いてみます。

「一将功成りて万骨枯る。何の顔（カンバセ）ありて父老に見（マミ）えんや――。」

「戦争に勝利をおさめたと言って将軍の私は歓迎をうけるけれども、何万と言う多くの兵隊を殺した罪は誠に重い。どんな顔をして兵隊達の家族に顔向けができようぞ、自害してお詫び申上げるしかない……」と、書き残している。

帰還し、天皇に戦況報告の際、熱涙頬に流れて痛恨の状極まる所をしらなかった。そして、復命が終わってから

「ひとえにこれ、微臣が不適の罪、願わくば臣に死を与え賜え、割腹して罪を謝し奉り度い」と言上して平伏した。天皇はしばらく言葉も無かったが、やがて、悄然として退出する乃木将軍を呼び止められ『今は死ぬべきではない。郷もし死を願うならば、われの世を去りてにせよ』と、言はれたと云う。」（この項乃木希典伝）

そこで乃木さんは死をとどまり、天皇崩御まで軍事参議官、学習院長等要職に就き、天皇御大葬の夜、静子夫人と共に天皇の後を追い自害して世を去りました。▲▲

時計の寄贈を受けました

今年三月に退任された小林龍一郎前深小学校校長先生から、町民会館に時計の寄贈を受けました。

早速二階大広間に着装し、使用させていただいています。ありがとうございました。

町内会連合会

八月　町内各種団体行事予定

◆小学校（幼）
▼全校登校日……四日
▼幼稚園登園日……一八日
▼一・四・五年登校日……二三日
▼三・二年登校日……二五日
▼環境整備作業（八時～十一時）……二七日
▼六年登校日……二八日

◆子ども会
▼ソフト部合宿……五・六日
▼防犯少年少女球技大会……一九日

◆女性会
▼親睦会
上＝一〇日　中＝一五日　下＝二三日

◆消防団
▼ソフトボール大会……六日
▼やっさ祭り警備……二二日

行事のお知らせ

恒例のお盆行事を八月十五日に深小学校を主会場に行ないます。行事内容は――

★太鼓踊り奉納　町内各所
★同　千川神社
★同　深小学校
★盆踊り　同
★ゲーム遊び　同
★くじ引き（ビンゴゲーム）　同
★夜店　同

※慰霊祭は取り止めます。カラオケは今年は中止します。

展望席

ちょっと道を譲ったら、黄色のランプを点滅させてくれる人の話しを、以前この欄で書きました。先日も、太郎谷バイパス下り線で、同様なことがありました。3ナンバーで、空をも飛べる様な車にサングラスの青年。左の白ライン外に車を寄せたら例のランプを点滅させてくれました。▼今回は、日頃感じている「Sグラス」について、私が感じていることを少し書いてみます。紫外線の強い夏の海・山は、Sグラスラッシュで、そのデザインも豊富だし、ひとの目も楽しませてくれます。こんな場所ではSグラスをかけていなければ、懐具合も疑いかねなく、肩身の狭い思いをさられることがあります。▼むかし、「これは屋外・屋内いずれでも自然光に近い状態で使える新しいSグラスです。」と店主に勧められ、流行の仲間入りをしました。ある日、勤め先の女性がそれとなく「クレーム」をつけてくれました。Sグラスを着けると、目が鋭くなるという指摘です。▼カッコよさの自己PRが、一面自己満足に過ぎぬことを私は体験しました。Sグラスに限らず身につけるもの一つが、その人の品性を表わしているとも言えるようです。特に若い女性のSグラス姿は、美しさと「威圧」の微妙な接点にあると思うのですが、どうでしょう？。

思い出の修学旅行

「題」は全て「修学旅行」ですので省略し、本文のみを掲載します。

河原　和司

五月一八日朝、七時三〇分に三原駅に行きました。大きな声で、

「おはようございます。」

といって、ぼくは、走っていけまでいった。いけにこいがいた。かもめもいた。かめとこいがげんきにおよいでいた。

しんかんせんにのると、ウノをして、しょうへいくんがかっておもしろくなかったです。もう一回もしょうへいくんがかった。ぼくはもうあきたから、ほかの小学生の人たちと遊んだ。

ぼくは、真ちゃんのあだなをつけた。「アンパンマン」とつけたら、みんながアンパンマンんというようになった。

駅にとうちゃくし、バスにのったらガイドさんがクイズをだしてくれました。でも、クイズはぜんぜんわからなかったです。ぼくは、一もんもこたえられなかったです。

大坂城に到着すると、みんなが

「スゲエー。」

といいました。大坂城にのぼりました。しょうくんといっしょにのぼりました。一ばん上にのぼるとしょうへいくんがいました。ぼくはしょうへいくんと外にでたら、しょうへいくんが、

「こわい。」

と言いました。ぼくは

「だいじょうぶ……」

とききました。そしたら

「だいじょうぶじゃない」

と言いました。しょうへいくんと写真をとりました。

しょうへいくんは、しにそうなかおをしてうつりました。中にはいったら、なみだ目になっていました。

バスにもどるとまたクイズをしました。また、一もんもこたえられずに、五重のとうにとうちゃくしました。見て写真をとったのしかったです。東大寺にいって、はなのあなをとおってたのしかったです。

ホテルで、ウノをしたり、やきゅうを見てたのしかったです。朝は、はなぶだをしたりしました。つぎは、平等院までバスでいきました。

平等院についてぼくは、ホウオウをみました。カメはどこかとか、いろいろいろ見て楽しかっだです。

二条城にいって昔のろうかとか、へやとか見学していろいろわかりました。金閣では写真をとったりして楽しかったです。

えいが村にいって、りょうくんとけんがくしていたら、古川くんが一人で見学していたから、ぼくは古川くんといっしょに見学しました。

▲▲

宮本　翔太

七時に勇真君家の車に乗って、深下組から出発して、三原駅に着きました。そして、出発式をして、新大阪行きの新幹線に乗りました。

新幹線の中で、着くまでウノやトランプや花札をしました。そして二時間たって、やっと新大阪駅につきました。

そして、バスに乗って、バスガイドの大木さんにクイズを出してもらいました。

大坂城に着いて、中をみて出ました。

次に法隆寺に行きました。仁王像を見て、中に入りました。そして、五重塔と、金堂を見てバスにもどって、次に大仏殿に行きました。

そこには鹿がいっぱいいました。せんべいをあげて、大仏を見に行きました。大きかったです。鼻の穴と同じ大きさの柱の穴をくぐって、ホテルに行ってご飯を食べて、反省会をしてねました。

次の日、最初に平等院に行って鳳凰を見て、二条城に行って、うぐいすばりをふんだら、キュキュと鳴りました。

次に鹿苑寺に行きました。金できらきらしていて、きれいだったです。

その次に映画村に行って遊んだり、写真をとったり、おみやげを買ったりしました。六年生のいい想い出になったのでよかったです。

▲▲

網掛　翔平

朝、七時三〇分に三原駅にとうちゃく、そして、大きな声であいさつ

「おはよう！。」

と言って、ちょっとみんなをまっていました。そしてみんながきたので、ウノやトランプをしました。かっちゃんに、ウノに勝ってうれしかったです。

そして、シンカンセンの中でほかの学校の人と友達になれてうれしかったです。その友達としゃべったりしました。そして駅についてバスまで歩いていって、まず、バスのガイドさんと友達になって、ガイドサンがクイズをだしてくれました。クイズではなく、ただのさむいギャグでした。だから、みんなが、

「さむ～。」

と、いって、さわいでいました。

バスが、ぼくの楽しみにしていた大阪城につきました。

大阪城はすごく大きな所でした。そこでごはんを食べて、大阪城にあがったけど、ぼくは、高いところがにがてなので、足がガクガクしました。そして、かっちゃん達と、おみやげをかいにいきました。そして、みんなで大坂城をバックに写真をとってかえりました。でも、バスにのっても、足がガクガクしていました。そして、バスは次の目的地に行きました。

次は、法隆寺につきました。五重塔を見て、すごくでっかかったので、おもわず

「スゲエー・でけえー。」

と、思いました。しかも、古い木でつくったたてものだから、ぼくは、よくこんなでかいものを作ったなぁー、と思いました。

そして、ほかのたてものもけんがくして、まだバスにのり、こんどは、ならのだいぶつをみて、そのあと、だいぶつの『はなのあな』の大きさをさいげんしたあなをとおったあと、バスにもどりました。

そして、『ホテルさるさわ』にいてたのしかったことは、みんなでゴハンをたべたり、かいものにいったのがたのしかったです。

朝、早くおきて、次の目的地、平等院に行ってぼくは、ホウオウと言う鳥をみて、バスにのってこんどは、二条城と言うところに行って、ウグイスばりをたいけんしました。すると、ゆかが、「キュッ・キュッ」なっています。ぼくは、どういうりくつになっているのかなと思いました。

バスにのって、つぎに金閣にいきました。金閣の金をみて、かんどうしました。そしてバスにのって、えいが村にいって、お金が0円なってしまって、かなしかったです。

▲▲

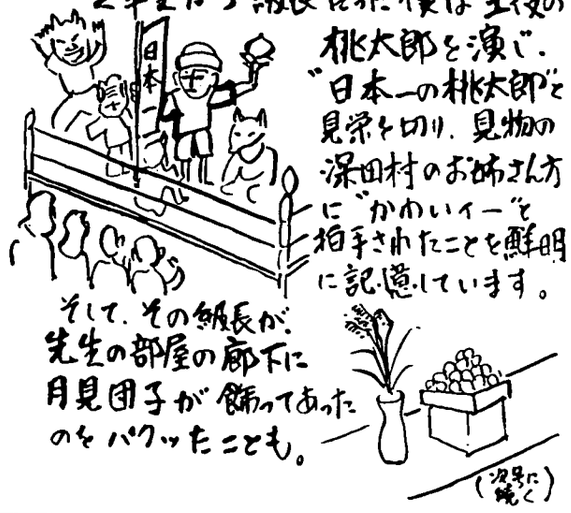
ボクの集団疎開の思い出

(元)大阪市立海老江東国民学校
2ねん　ニシダ　カツヒコ

桃太郎を演じたこと

戦時下教育で、桃太郎の鬼退治の物語りは鬼畜米英の排撃思想にマッチしたのかよく取り上げられたようです。

2年生から級長だった僕は主役の桃太郎を演じ、"日本一の桃太郎"と見栄を切り、見物の深田村のお姉さん方に"かわいィー"を拍手されたことを鮮明に記憶しています。



そして、その級長が、先生の部屋の廊下に月見団子が飾ってあったのをパクッたことも。

(次号に続く)

深町子ども会チーム第三位

三菱重工ゆうわ会SB大会

去る七月二十二日、三菱和田沖グランドで、炎天下、ソフトボール大会が繰り広げられた。

わが深町子ども会チームは、毎週土・日曜日に、古川監督のもと、小学校グランドで、練習を重ねているが、その成果を発揮し第三位となり、トロフィーを手にした。

一回戦は運よく不戦勝、二回戦は貝野チームと戦い勝ち進んだ。三回戦は、尾道三成チームに惜しくも破れたが、全員声を声を掛け合い、よく戦った。

五年生の井手上君は、「暑かったけど、おうちの方の応援で元気がでた。三位になれてうれしかった。」と語っている。

今年度になり、二個のトロフィーが校長室に飾ってあるが、時折五・六年生がのぞいては、下級生に得意そうに説明しているのを見かける。

これからも、リーダーの西本君を中心に、自信をもって生活してほしいと願っている。

○春　夏　秋　冬○

梶谷　マサヨ

蜻蛉つり　今日は何処まで　行ったやら（千代女）

恩愛の情　今昔のなし

人住まぬ　所より越し赤ポスト

公民館も　華やぎて見ゆ

我が庭に　四季咲のバラ　一本あり

うすくれないの　色のやさしく